

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 教授

氏名: 清水 享

研究課題		東アジア周辺部の祭祀と経典テキストの歴史学、文化人類学的研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	東アジア周辺部に位置する四川省、雲南省などに居住する彝族は、独自の文字である彝文字を用いた教典を使い祭祀活動を行なっている。この彝文字で書かれた教典テキストとこれらを用いた祭祀活動について歴史学、文化人類学の視点から考察を進めるのが本研究の目的である。教典テキストは彝族において祭祀活動を司る祭司「ピモ」が筆写し、さまざまな儀礼を執り行なうのである。本年度はこの彝族の独自の文字である彝文字そのものにも注目し、彝文字とその背後の文化などについても考察を進めた。また以前に進めていた台湾中央研究院における彝文字文献とその学術調査の分析について、本年度は改めて考察を行なった。台湾においては国家図書館で『雲南文献』と呼ばれる資料などについて分析し、祭祀や教典テキストに関するデータの確認と収集に努めた。さらに20世紀後半から現在まで中国国内で多数出版されている彝文字に関する辞書類についての研究も進め、彝文字の各地の状況や現代社会への応用など、多面的な考察を行なった。こうした彝文字についての研究は直接的な教典テキストや祭祀の研究ではないが、彝文字テキスト教典研究の基礎となるもので、非常に重要な研究であると考えられる。また「ピモ」が定める彝族の暦に関する研究も昨年度に引き続き進めた。
	研究成果	香港科技大学において平成29年9月に彝文字テキストに関する報告を行なった。ここでクリスチャン・ダニエルズ氏など、同大学の中国西南非漢民族研究の最先端の研究者と彝文字テキスト研究についての意見交換をすることができた。また台湾国家図書館では『雲南文献』と呼ばれる雲南同郷会の資料を閲覧し、祭祀や教典テキストに関する内容についての確認ができた。台湾の中央研究院が所蔵した彝文字テキストとその収集に関する文化人類学的調査について、平成24年に中国北京で開かれた社会科学院の国際シンポジウム「中日の人類学・民族学の理論的刷新とフィールドワークの展開」において口頭で報告を行なったのであるが、本年度はこの研究について新たなデータなどを加えて、中国語の論文として、平成30年3月に刊行の予定である。これにより中央研究院の彝文教典とその収集過程を改めて明らかにすることができた。彝文字の辞書類については、およそ30点を比較し考察を進めた。彝文字の辞書類の研究はこれまでになく、その分析の成果は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の研究会で報告した。ここで各地域間の辞書類の差異の大きさを指摘した。また彝族の暦について、「十月太陽暦」などその暦法の特徴や暦にまつわる事象について、『世界の暦文化事典』のなかでまとめた。本書は平成29年11月に刊行された。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①著書:中牧弘允編『世界の暦文化事典』丸善出版、2017年11月、54～57p(「1. 東アジア 中華人民共和国(彝族)」)。 ②論文:清水享「関與中央研究院所蔵彝文文献及其来歴の田野調査」Senri Ethnological Studies、97号(韓敏、色音編「人類学視野下の歴史、文化與博物館」、国立民族学博物館)、2018年3月(予定)、351～368p)。
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①学術報告:清水享「関與彝族與彝語以及彝文文献 一彝文文献情況初探」香港科技大学人文学部、2017年9月1日、香港科技大学學術大樓。 ②研究プロジェクト報告:清水享「彝文辞典(字典)について」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究・共同研究課題「中国雲南におけるテキスト研究の新展開」プロジェクト2017年度第2回研究会、2017年12月2日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
	・その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	なし